

## 重点課題名 : ⑥新品種・技術の開発

- 検討項目
1. 競争力のある県オリジナル品種の育成
  2. 低コスト、省力化技術の開発
  3. 地球温暖化対応技術の開発

# 競争力のある県オリジナル品種の育成

○県産農産物の知名度を高めるため、他産地にはない高品質で独創的な品種の育成

○取組当初から育成目標を明確にし、かつ変化する消費者ニーズ等に柔軟に対応できるように育種目標を管理

## 【現 状】

○ 農家所得の安定を図るための高品質・多収品種の育成

<育成品種数(品種登録出願中のものを含む)> 平成22年5月現在

水稲・大豆	小麦	野菜	果樹	花き	計
2	2	5	5	12	26



(さぬき姫)

○ 各県で特徴のある独自品種が育成され、産地間競争が激化

<例> ・いちごの独自品種を育成している県 30県  
 ・キウイフルーツの育種に取り組む県 3県  
 (本県は約20年間の実績で日本一)



(さぬきゴールド)

## 【課 題】

○ 消費者ニーズに即した他県にない高品質で独創的な品種の早期普及による差別化販売

○ 変化の早い消費者ニーズに対応した育成期間の短縮と柔軟に対応できる目標管理

## 【これまでの主な成果】

○うどん用小麦の開発

・「さぬきの夢2000」(H15.3.26登録)  
 麺にしたときの色、粘弾性、なめらかさに優れる  
 H13:23ha → H22:1,520ha (県内品種割合100%)

・「さぬきの夢2009」(H21.11.10出願)  
 「さぬきの夢2000」の食感を継承し、のど越し、風味に優れ、収量性が高い(24年秋播き小麦から全面切替)

○いちご「さぬき姫」(H21.2.24登録)

大玉、良食味、ジューシー、出荷期間が長い  
 H17:1.2ha → H21:20ha (県内品種割合28%)

○アスパラガス「さぬきのめざめ」(H17.2.22登録)

萌芽(芽覚め)が早く、食味も優れ、根元まで柔らかい  
 H17:4.3ha → H21:24.9ha (県内品種割合40%)



(さぬきの夢2009)

## 【対応方向のイメージ】

○ 優れた栽培特性や消費者ニーズに沿った育成目標の明確化とニーズの変化への柔軟な対応

<例示>

- ・グルテンを強化したうどん用小麦の育成(「さぬきの夢2009」後継品種)
- ・キウイフルーツの高品質安定生産のための台木専用品種の育成
- ・多様な品質、収量性を有するアスパラガス新系統群の養成

○ 育成された品種の種苗供給体制、産地化に向けた普及体制の早期構築

# 低コスト、省力化技術の開発

○農業従事者の減少や高齢化が進む中で、国内外の産地間競争に打ち勝つための低コスト、省力化技術の開発

○産地や担い手の経営の実情と将来の展望・目標に沿った開発目標を設定し、企業や大学等との共同研究による早期実用化

## 【現 状】

○主要な品目を中心に省力化や生産性の向上を進める機械・装置や栽培技術を開発・普及

○省力化のための機械・装置などは特許を出願し広く普及

出願件数 14 件（平成22年5月現在）



野菜半自動多条移植機「ちどりさん」

〈県内普及台数 300台以上（H21末時点、全国では730台程度）〉

## 【課 題】

○産地間競争の激化や農業者の高齢化に対処できる低コスト・省力化技術の開発と早期実用化

## 【これまでの取組みの主な成果】

◆イチゴ高設栽培（らくちんシステム）

経営の安定化と新規担い手の確保  
〈養液栽培普及面積 57.5ha〉  
（H22年産、全体の85%）



作業姿勢の改善と栽培管理の  
マニュアル化、自動環境制御

◆香川県独自のアスパラガス栽培方式

環境の改善による省力化と高品質化  
〈さぬきのめざめ栽培面積 24.9ha〉  
（H21年度、全体の40%）



新品種「さぬきのめざめ」の  
2うね疎植栽培と妻面の開放

## 【対応方向のイメージ】

○産地や担い手の将来展望を踏まえた、経済性のある作目に絞った開発目標の設定と、大学や企業との共同研究による研究の加速化

〈開発しようとする技術の例〉

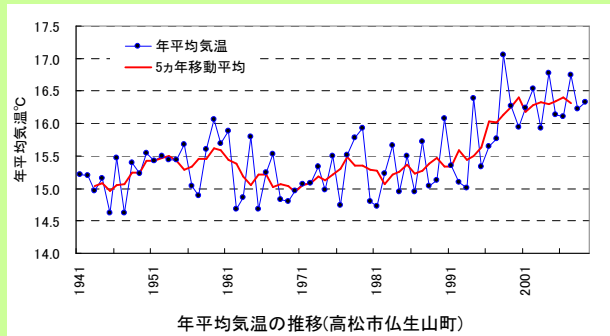
○株の生育が旺盛で収量性の高い「さぬきのめざめ」の特長を活かしたアスパラガスの省力・高品質栽培技術（作業能率の向上、若茎太物化技術等）の開発など

# 地球温暖化対応技術の開発

- 地球規模の温暖化の進展により様々な作目で被害が発生、各作目で明確化した課題を解決する技術の早期の実用化
- 更なる温暖化の進展により発生しつつある新たな課題について迅速に対応

## 【現 状】

- 地球規模で温暖化が進行し、香川県でもここ20年で平均気温が大きく上昇



- 温暖化の進行により、様々な被害が発生
  - ・水 稲：登熟期の気温上昇で品質が低下
  - ・果 樹：ミカンの浮き皮、ブドウの着色不良
  - ・施設園芸：生育不良と労働負荷が増大
  - ・ミナミアオカメムシ等、新たな病害虫の発生

## 【課 題】

- 明確化された温暖化に対して解決すべき課題の早期解決
- 更なる温暖化の進行で見られ始めている新たな問題に対して迅速な対応

## 【明確化した課題の解決方向】

水 稲	登熟期の高温に対応する栽培技術の開発を進めながら、併せて高温登熟性に優れ、市場評価も高い品種の育成
果 樹	ミカンの、マルチ・ドリップ灌水技術等を応用した気象変動に即応した養水分管理技術の開発 ブドウの果皮褐変障害やモモのみつ症の、精密な判定技術の開発
施設園芸	被覆フィルムへの散水により発生する「打ち水効果(蒸発熱による冷却効果)」を利用した夏期の施設内温度制御技術の開発
病害虫	温暖化による生息域の急速な拡大により被害が増加している新たな侵入病害虫等の発生予察や防除技術の開発(四国4県の試験研究機関が連携した取組みによる開発の加速化)

## 【新たな問題に対する対応方向のイメージ】

- 播種期の降雨による麦の生育不良など新たな問題に対するほ場管理・播種技術の迅速な開発・改良
- 香川県に導入が可能な、温暖化に対応した新たな品目の探索